

令和2年度 第3回石狩市叢書発刊編集委員会

■日時：令和3年1月24日（日）10：00～

■場所：石狩市役所3階 庁議室

■出席者：下記表のとおり

委員・臨時委員		職員（事務局等）	
役職	氏 名	所 属	氏 名
委員長	田岡克介	総務部長	及川浩史
委員	石橋孝夫	総務部総務課文書・統計担当主査	森本栄樹
委員	村山耀一	総務部行政管理課主査（臨時）	小林 睦
委員	志賀健司		
委員（臨）	三島照子		
委員（臨）	工藤義衛		

【事務局（森本）】

本日は、デザインや初稿を確認させていただきます。はじめにデザインですがどうでしょうか。

【三島委員】

大きさも言っても良いのですか。

【事務局（森本）】

あくまでも案として出されております。これを拡大することは可能です。

【三島委員】

小さくして欲しいのです。市章を小さくしてほしいです。

【田岡委員長】

自分もそう感じる。市章を入れることになっているのか。

【事務局（森本）】

前回の委員会で入れた方が良かったろうということになりました。

【事務局（及川）】

考えられるのは、叢書のデザインの下に叢書という表示があるので、ここも小さくなってしまう可能性があります。このままの大きさで、もっとデザインだけを小さくというイメージでしょうか。

【三島委員】

全てモノトーンになっている中でここだけカラーになっているので、何か印刷が強すぎる。

【村山委員】

私は、これくらいでいいと思います。大きくて目立つし、逆に、この石狩叢書も結構大きい方が良
いかな。文字もこの位置が良いかどうかは別として。少し大きい方が良くと思います。

【三島委員】

「吉岡玉吉さんの昔物語り」とある右側に石狩叢書と書いた方がいいと思います。縦書きでこっち
でも分かるし、分かりやすい方が良くいかな。

【村山委員】

次回の発刊のタイトルによって、タイトルの大きさや行数が変わってくるので、それに関係無い場
所に、常に同じ場所にあった方が良くいかなと思います。

【田岡委員長】

マークの下が良いのではないかな。

【村山委員】

同じ場所にあった方が良くいと思う。

【事務局（及川）】

結果的に今の位置で同じくらいでというご意見ですね。

【志賀委員】

石狩市叢書と石狩叢書と混在しているのでどちらかに決めた方がいいです。

【田岡委員長】

石狩叢書の方が良くいでしょう。

【事務局（森本）】

分かりました。石狩叢書とします。

【志賀委員】

デザインですが、シリーズ名は表紙側が小さいので、シリーズ名はずっと出ていくことを考えた
ら、もう少し大きく並べても同じだと分かるようにしたいのと、背表紙から見た時の位置が、青い四
角に白い文字で表の方も合わせた方が良くいかなと思います。

【事務局（及川）】

デザイン性を統一した方が良くいということですね。

【石橋委員】

(1) の表記はおかしい感じがしますよね。

【田岡委員長】

他自治体は、市や町など入っているか。

【工藤委員】

釧路は釧路叢書で、市とか町はあまり入っていないような感じがします。

.

【事務局（森本）】

北見は北見叢書、旭川は旭川叢書で市が入っていない。

【事務局（及川）】

江別も市が入っていないく江別叢書

【事務局（森本）】

デザインについて、市を取って石狩叢書と数字のデザインを統一します。次回に見ていただくこととします。次に進みます。地図となります。前回もお話ししましたが、市で作成した地図を入稿します。この後、出来れば初校の修正に合わせて、地図を織り込んで、2回目の時にお示しが出来ないかなと思っています。白黒でも十分と思い、白黒で作成しました。前回の意見を踏まえて、修正させて頂きました。全体イメージのご意見と個々に地名を加えたら良いかということもあわせていただければと思います。

【田岡委員長】

現在の地名ですよね。

【事務局（森本）】

本町地区は現在の地名にその他古い地名も入れています。

【田岡委員長】

古い地名を現在の地名にも入れるならば、文字の色を変えるなどしないと現在もあると見えてしまう。

【事務局（及川）】

今無い地名であれば括弧書きの方法もあります。本文で例えば下貞寧曳場が出てくるならばその本文の所に図参照など入れた方がいいということですね。

【事務局（小林）】

基本的に字名は現在のものを記載している。また、例えば曳場は、本文に出てくる地名というより

はポイントで良いですかね。

【田岡委員長】

そう書いた方が良くと思う。

【三島委員】

地図の何処かに書くのですよね。

【石橋委員】

灯台の字が旧字になっている。灯台と灯台下などこれは歴史的な地名だから、旧字になるかも知れないが。

【事務局（小林）】

原稿が旧字を使っていたので、そのままそれを持ってきたということです。

【石橋委員】

こちらの曳場は旧字でも良いのかも知れないけれど、石狩灯台はどうだろうか。

【事務局（及川）】

次のページの吉岡玉吉さんの地図は、灯台の灯が古い方になっているのもある。

【田岡委員長】

地図の中で、金龍寺入っているが法性寺は入っていない。現在の意味を出すならば載せる必要があるのでないか。または、本文に関係のあることだけ載せるなど表示すべきでないか。

【村山委員】

今の地図ですが、石狩小学校と能量寺の場所が、ちょっとほかと比べると違いがありますので、一段上げてもらえば良いと思います。石狩小学校の所に能量寺を入れてその上に石狩小学校でないと。

【事務局（小林）】

村山委員のお話では、旧本町地区は川沿いに1本道があり、この太いのをご覧になっているということですかね。この、この太いのは道道のイメージで書いております。旧道道のイメージで、もう1本川側に道があったというイメージで書いております。

【三島委員】

ごちゃごちゃになっているから、どちらかにした方が、見る側も見れると思います。お寺は全部カットするとか。

【村山委員】

次のカラー地図では今度は八幡神社をもう少し上げた方が良いのかなと、いわゆる八幡神社を弁天神社に並べているように。金龍寺ももう少し上げて。

【石橋委員】

これは、吉岡さん本人が作ったものだから、直すことはどうだろうか。明らかに間違っているのであればいいが。

【事務局（及川）】

吉岡玉吉さんの地図では石狩小学校が、旧公民館の右側の方にあるように見えるのですが、この位置で良いのですかね。石狩小学校の位置は龍光寺の位置は左側ですよ。

【村山委員】

これで良いです。昔は。

【事務局（及川）】

そうしたら、この石狩小学校の左側に、中学校があったというイメージなのですね。

【田岡委員長】

カラーの方に歴史的なものの全部入れて、こちらを現代版にしてはどうか。吉岡さんの原稿に追加したと書けば良いのだから。

【石橋委員】

新たに作れば、いくらでも作れますけれども。中身も変えないと駄目で、本文の方と統合しないといけないと思います。

【田岡委員長】

この図面が分かりづらいので2枚にする方法はどうか。

【事務局（森本）】

2枚の方が良いです。こちらは吉岡さんの書いたもので修正が難しいです。

【事務局（及川）】

吉岡さんのものは画像になっている。それに加えることは出来ないのか。原本性を度外視して、市のオリジナルとして、吉岡さんのものに加筆した形で発刊する方法が、田岡委員長が言われているものです。

【田岡委員長】

石狩の古い住民には、ものすごく見づらい図面だね。載っているものと載っていないもののバランスが悪い。本文にあるならばそこに書けばいいんじゃないかと思うんだよね。

【事務局（森本）】

本文に関係のある地名と言っても、田岡委員長が言われるような懸念はあるということですよね。

【事務局（及川）】

今、意見が2つあり整理しますと、ここの部分を現代版に1回整理してしまっ、ほぼ現代版だけにして、著作権は別として、吉岡さんの地図に少し修正を加えてという話もありましたよね。それは田岡委員長の考え方。吉岡さんの地図に、少し修正を加えましたという方法です。

【田岡委員長】

現代版で何を書こうとしているのかを明確にすべき。現代版の中で何を表示するのか。ある程度、石狩の有名観光地を含めて弁天社など

【三島委員】

すごく小さいから、制約があるんじゃないですか。だから、大きくしても良いですか。

【事務局（森本）】

A4で作っており、これは縮小しただけですので。これは、こういう形で載せると、横になるものですから、見づらいかないと思います。こちらを現代版にして、古い地名は、吉岡さんのこちらの加工が出来れば良いでしょうけれど出来なければ。

【三島委員】

吉岡さんのものは加工しない方が良い感じなのですから。

【事務局（及川）】

吉岡さんのものとだぶってしまい、2枚もいるのかなと思います。これはこれで活かすという形にすると今の部分との整合性が取れるか。

【村山委員】

弁天社と曹源寺の間に道路がありますが、それを下に伸ばした所に本町があります。これが間違っているんでないかと思います。いわゆる弁天社の右側に法性寺との間にある道路の延長線上が、本町、尚古社がある本町だと思うのです。

【田岡委員長】

道路1本無いんだ。

【村山委員】

1本ね。必要ですね。

【事務局（小林）】

渡船場の道路は、弁天歴史公園の横を通って海岸に行く通り、展望台があった通りのことですか。

【工藤委員】

昭和20年代末に住宅地図のようなものを作っております。明細図を作り、通りは全部入っている。昭和29年くらいに作っている。実物もデータも両方あります。このサイズではゴチャゴチャになってしまうので、道路だけある程度間引いた方が良くも知れない。本町の場合は、本町道路に面しているのが本町だから、本町通が入らないと、本町が良く分からない。本町は難しいです。道路のこっち側が何とか町という訳でなく、横町とか弁天町もみんなそうだから、親船でもみんな道路の両側だからなかなか難しい。

【事務局（森本）】

いずれにしても、昭和20年代くらいの地名で1枚出すということで整理します。

【志賀委員】

私の意見ですが、石狩市域図は必要ですが、もっと小さくても良いのかなとは思いますが。第1回は本町地区が中心であり、本町地区の現代の位置関係を読んでいる人には分かってほしい、委員の皆さんは歴史に詳しい人ばかりでもう分かり切っているのかもしれませんが、もっと多くの市民、あまり知らない人に読んでもらいたいと思います。本町地区と聞くとあまり分からないと思います。実際、印刷するともう少し小さくなります。そうすると本町地区はどうするか、横にするのがいいか。

【事務局（森本）】

石狩市域図と旧石狩地域図はA5の1枚で十分で、本町地区の地域図をもっと大きくした方が良いということですよ。

【三島委員】

横になるのですか。

【工藤委員】

本町地区の詳細図は、90度では無くても45度でも良いのですが縦長にする方法はどうだろうか。その部分の拡大図みたいな感じに持っていけると対象としても分かり易くなるかも知れない。ただ、収まりは悪くなるかも知れないから、今の図の角度を変えるくらいでも良いのかも知れない。

【三島委員】

横にしたら駄目ですか。見づらいということですか。

【事務局（森本）】

分かりました。横にするか、今工藤委員が言われた45度にするかどうか検討します。工藤課長からデータをもらい、20年代くらいの地図を参考に修正する。その他もう一度整理しますと、石狩市域図と旧石狩市の地図1ページとする。地図の方はこれで進めます。

次に「まえがき」について、当初、叢書発刊編集委員会でこの「まえがき」を使った方が良いかなとは思っていましたが、ここは石狩市として出した方が良いということで、田岡委員長と相談しました。最後に「おわりに」として、叢書発刊編集委員会で委員長ほか、委員の名前で出した方がよいということで整理しております。

【三島委員】

石狩市の所は石狩市が書くのですか。

【事務局（森本）】

石狩市の所は「まえがき」の内容も参考に、田岡委員長と相談して考えていきたいと思います。先程、著者の略歴について三島委員から、追加した方がよいというご意見をいただいております。

【三島委員】

いしかり暦の創立45周年特集号に吉岡さんの原稿が入っていて、自分は、これから、石狩市の昔の話しを書いて広く残していきたいという決意みたいのが書いてあり、著者略歴の中に、それを入れたらどうだろうかと思っております。その具体的内容ですが、「同郷の田中実顧問と隅々、階級を温めた折り、石狩本町地区は、石狩河口橋が出来、名残りの渡船場も廃止になり、鮭で栄えた町も、人口が減り、小学校に上がる児童も、例年1人か2人、完く隔世の感があると話されていました。漁業の歴史は、曲がりなりにも記述されてはいるが、実際に携わった人々の歴史は、口承の域を出ず、活字になっていないとも聞きました。底辺で苦勞をし、漁勞した漁業者の働きぶりを活字にして、これからの石狩の街に暮らす人々に、先人のいきざまを会員の皆様の力を借りて、記録したいと願って、平成9年に、入会させてもらった次第です。石狩本町地区の横町、弁天町付近は、新潟県などを中心に東北地方出身の漁師が中心で、石狩湾に生息する魚介類を生産する零細漁業者であり、春は厚田村への鯺漁、秋は石狩湾から石狩川に遡上する鮭の漁獲を生活の糧として生計を維持していきました」ということが色々書いてあり、これらのことを後世に伝えようとしたという話しが書いてあります。これを入れることで、吉岡さんがどうして鮭の話をしたかということが分かるので良いのかなと思っています。

【事務局（森本）】

著者の略歴とは別に、書くきっかけとして載せる方法はあると思うのです。略歴と石狩叢書の発刊に当たりの間に入れた方がよいですね。

【事務局（及川）】

その場合の見出しはどうするのですか。

【三島委員】

「おわりに」は、それぞれの原稿の後ろに出ている。でも、何故こういう文書を残したかということが出ているので。

【石橋委員】

入れるならば、まえがきの中か、本の解説みたいなことで、前の方に入れた方が良い。

【田岡委員長】

まえがきにされた方が良くもしいない。

【事務局（森本）】

「はじめに」として石狩市で書いた後に「まえがき」として著者の書くきっかけとなった経緯ということで入れた方が良くと思います。本文が始まる前に原稿を入れ込む。

【石橋委員】

解説みたいなものだから「どういう内容だよ」みたいなことを話して、それを基に書けば良い。それは特集号になったものだから、本人が入りたいということであれば別だが、石狩叢書の第1巻目の趣旨がどんな本ということが分かるようなものであれば、「まえがき」やこの本の解説となると思います。

【事務局（森本）】

分かりました、本の解説的なもので入れるということとします。次に初稿となります。2月9日に、印刷会社へ修正等を提出することとなります。事前に田岡委員長とも相談させていただき、最終的に、統括的な修正は委員長が確認することよろしいでしょうか。石橋委員など他委員のサポートはどうでしょうか。

【田岡委員長】

これを1人でやるとなれば大変だから、みんなで手分けをしてやった方がいい。みんなで力を合わせて。

【事務局（及川）】

石橋委員はどうでしょうか。お手伝い頂けませんか。工藤委員も。

【工藤委員】

わかりました。

【石橋委員】

9日に校正を終了するなればその前会議にかける必要があるのか。

【事務局（森本）】

了解いただければ、田岡委員長、石橋委員など私達が集まり、修正後に2校目が上がり次第、皆様にお集まりいただき、見ていただく方が2月9日に再度集まるよりは良いかなとは思っております。

【事務局（及川）】

志賀委員も協力いただけますか。

【志賀委員】

できる範囲で協力します。

【石橋委員】

三島委員も、村山委員も、文字の修正で気が付く所があるのであれば、チェックをお願いいたします。

【事務局（森本）】

確認ですが、文面中、星マークが付いております。これは印刷会社から見て、明らかに間違っているところであります。例えば21ページの単位で3,600メートルなどであります。9日に印刷会社に戻したいと思います。村山委員と三島委員におかれましては、修正箇所がありましたら、2月第1週目くらいまでに教えていただければと思います。

【村山委員】

校正して、何かあればということですね。

【事務局（森本）】

明らかにここは修正が必要ということがあればお願いします。2月8日でも、田岡委員長と石橋委員で1回、打合せをするということによろしいでしょうか。

【石橋委員】

原稿も全部入っているということは確認しましたか。

【事務局（森本）】

確認します。2月8日に1度いただいたもので、田岡委員長と石橋委員で1回打合せをすることしたいと思います。この後、2巻目以降の発刊について、来年度委員会を開催し、決めることとなりますが、今、田岡委員長の方で2巻目を色々検討されているということで。

【田岡委員長】

予算として、写真や謝礼やコピー代などもかかる。

【事務局（森本）】

来年度の印刷費用ですが、500部印刷で50万円前後になりそうとのこと。

【田岡委員長】

2巻目の印刷は、写真が入るからかかりそう。

【事務局（森本）】

印刷費用は令和4年度予算となりますので。その他、志賀委員も言われていたこともありますし、テーマについて何かありますか。

【田岡委員長】

自分の希望ならば石狩の遺跡を、報告書レベルではやはり専門家しか目にしないので、いろんな人達を読んで、色々面白く読める、そういう本が欲しいなと思う。

【石橋委員】

紅葉山遺跡は分からないことが多くて、小説のような形であればいいですが、叢書となればそれだけの原稿を書くこととなり、なかなかだと思います。

【三島委員】

それは学術的に考えているから、そうなのですか。

【石橋委員】

学術的で考えていることでなく、正しいことを書く必要があるのです。

【三島委員】

遺跡を発見してから掘る段階とかはどうか。

【石橋委員】

10頁程度の話しであれば、大丈夫と思いますが。

【三島委員】

小学校高学年の子ども達を読めるようなものであれば、分かり易い形で49号遺跡のことを書いてくれたらいいですが。量的に、結構書けないでしょうか。

【田岡委員長】

石狩の遺跡について、まちの人達は、49号遺跡は何となくみんな聞いたことがあるが、どこにあるか分からないで、石狩の立て看板みたいになっていることが気になっている。

【石橋委員】

それは、かなり時間がかかると思っていて、今回、吉岡の原稿は鮭に限定したが、厚田や浜益のことを考えると、鯿はどうだろうという気がします。

【事務局（森本）】

当初は、鮭と鯿をセットで発刊する予定のところ、原稿量の関係で今回見送っております。

【事務局（及川）】

バランス的に考えても、それも検討すべきと思います。今、田岡委員長が書いているものは鮭関係ですか。

【田岡委員長】

アキアジに関わるよもやま話。先週はボンヌールに行って農林水産大臣賞を貰った「サーモンパイ」、それを聞いてきた。今、人に頼んで風景を収集して貰っているのだけれど。身近なものから古いやつは、ページ1つ1つのことは、詳しく書けないけれど、例えば、日本で鮭の神社がどこにあるなど、照会出してもやっぱり行かないと、肝心要の所を聞こうと思っても。

【志賀委員】

教育大の百瀬先生が、市の受託調査で、浜益のユーカラの話をちょっとまとめたのですけれども、叢書として出すとかという話しが、前にあったとか、無かったとか。それは、別にこちらで出さないから、百瀬さんは、自分で何か出すことを考えるという風に思っているのですよね。あくまでも、ネタとして、他のことを言いますと、吉岡玉吉さんの話で、ニシンを出すことは凄く方向性が限られてしまって、あまり良くないのではないかと思います。違うテーマなものを出した方が良いのかなと思います。

【田岡委員長】

まちの人達の生活が、健康で文化的な生活とか、そういうのが見えるようなテーマにした方が良いと思う。

【事務局（森本）】

例えば、ソフトボールのテーマで、対話形式で取りまとめたもの、当時の人達の話を書ける方法があるのではないかと考えております。今、田岡委員長が準備をされておりますが、3巻目以降を少しイメージしておいた方が良いかなとは思っているのですよね。2巻目は田岡委員長が準備されています。その3巻目以降をイメージしておいた方が時間的にまだありますのでね。実際に編集作業にかかるというと、令和4年度以降でも、十分間に合うので。準備は相当出来るので、少し、令和4年度、5年度で、こういうものを出していったら良いのでは無いかと思います。

【田岡委員長】

書いてほしいことを公募する方法もある。

【三島委員】

例えば、石狩の鳥や植物などあるのでないですか。

【事務局（森本）】

工藤課長の方で、文化財課の方で何か取りまとめを行い、出版したいというものはありませんか。

【工藤委員】

文化財課で持っているテーマは、今連載している博物誌で、1冊にしてもそろそろ良いのかなと思っています。

【田岡委員長】

石狩ファイルはどうだろうか。

【志賀委員】

基本的に1枚で完結するものであり、やはりテーマ、博物誌もそうですが、テーマが多岐に渡って広いです。例えば、博物誌や石狩ファイルであるテーマを絞り、まとめて発刊することはできるのではないかと思います。

【石橋委員】

事務局では、何かテーマを考えておりますか。個人的見解でもいいですが。

【事務局(森本)】

個人的には。ソフトボールは読んでみたいと思います。

【田岡委員長】

ソフトボールの歴史は、大会の資料が残っているから、少し付けて刷り上がたら、いずれに石狩叢書に載せたらどうだろうという話。

【事務局(森本)】

市の職員も知らない部分もあるので。

【田岡委員長】

安藤さんに、石狩の文学がどういう風にたどって来たかということを1つ1つ聞いたらどうだろう。

【事務局(森本)】

今日、色々お話を伺いましたので、また委員会の中で色々、話しをいただき、2巻目は、田岡委員長で色々考えられていることであり、3巻目以降はまた色々準備をさせていただきたいと思います。

【石橋委員】

3巻目は、全く目先の違うものということで。このあたりは事務局も考え方を出して、探すなりしていった方がいいと思います。

【事務局(森本)】

了解いたしました。今後整理していきたいと思います。前回の議事録をまとめました。確認の上、修正等があれば連絡いただければと思います。今日は日曜日にお集まりいただき、どうもありがとうございました。そういう形で、引き続き作業をさせて頂きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

令和3年3月19日 議事録確定

石狩市叢書発刊編集委員会 委員長 田 岡 克 介